



文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひざった両手の手のひらのバターンによって、日本建築の重要な要素である丸帯（くじょう一帯みもの）のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にかけたれ永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したもので

おばまちようこうくうしゃしん
小浜町航空写真



あさひやまいせき
朝日山遺跡



くにさきいせき
国崎遺跡

うんせんし まいどうぶんかざい 雲仙市の埋蔵文化財について おばまちよう みなみくしやまちよう まいどうぶんかざい ～小浜町・南串山町の埋蔵文化財～

わんどういせき
湾頭遺跡



ながさきけんうんせんしきょういくいいんかい
長崎県雲仙市教育委員会

みなみくしやまちようこうくうしゃしん
南串山町 航空写真

おばまちょう まいどうぶんかさい 小浜町の埋蔵文化財

あさひやまいまいせき しりこわはましうがここうがこながむらうわう ひこう しゃめん ひさ いせき さくう おばまちょう ちよう
朝日山遺跡は、市立小浜小学校東側丘陵の標高40~45mの斜面に広がる遺跡です。旧小浜町の町
まいじゆうたくわせつ とこな ひん ほくごちらくさ おこな やくせん ひくくなみえ じこまん じだい 月 ごよ
営住宅建設に伴って、1980年に発掘調査が行われました。約2千5百年前の縄文時代の終わり頃の
いせき ちうり おこな あと かが さあと とうじ ひと しょう どき せき てん しょく どき
遺跡で、調理を行った痕と考えられる炉跡や、当時の人が使用した土器と石器が2000点ほど出土し
ました。土器はヘラ状の工具で土器の周囲に刻目を施すものや、土器を作る際に使用した、編物や織物
のちうり どき ひょうひん こく さと ひき あが どき どき
などの布の模様がついた土器、表面がきれいに磨かれた土器などがあります。この土器は、南島原市深
えくわら とくわら とき とくわら とくわら とくわら とくわら とくわら とくわら とくわら
江町「山の寺遺跡」のものと同じ特徴を持っており、「山の寺式土器」と呼ばれる、縄文時代の終
りごろに多くみられるものです。石器は、矢じり・打製石斧・磨製石斧などが発見されました。このな
かで、中国大陸からその技術が伝わったと考えられる『扁平片刃石斧・小形方柱状石斧』(磨製石斧
のじゅうい)が、日本の縄文人が昔から利用していた磨製石斧の素材である「蛇紋岩」で作られており、大
陸からの新しい文化や技術と縄文時代の古い伝統の両方の特徴を見ることができます。朝日山遺跡は、
後に続く新しい時代「弥生時代」へと移り変わる頃の様子が良くわかる貴重な遺跡です。



刻目のある土器（上） 磨かれた土器（下）



編物や織物などの布の模様がついた土器



矢じり 打製石斧（土を堀る道具）



扁平片刃石斧・小形方柱状石斧



おばまちょうはんどういせき ひくかだいがたいだいひいわく 小浜町台型台形石器

おばまちょうはんどういせき ひくかだいがたいだいひいわく 小浜町台型台形石器
小浜町台山地区にある遺跡で、農地基盤整備に伴い発掘調査が行われました。写真は
約1万5千年前の百花台型台形石器と呼ばれる長さ1cm程の石器です。通常は黒曜石
と呼ばれる黒いガラス質の石で作られますが、この石器は「碧玉」と呼ばれる綺麗な緑
色の宝石で作られており、他の遺跡では見つかっていない大変貴重な出土品です。

みなみくしやまちょう まいどうさんかさい 《南串町の埋蔵文化財》

国崎遺跡は、橘湾につきだした国崎半島先端部の海岸部分に広がります。1986・1988年に国崎半島公園整備事業に伴って、発掘調査が行われました。きれいな砂浜が広がる海水浴場の脇からたくさんの土器や石器が発見され、縄文時代中頃から終り頃（約4千年前～3千年前）と、奈良時代・平安時代（約千年前）の遺跡が存在することがわかりました。縄文時代の遺跡からは多くの土器や石器が見つかり、中でも、魚を突き刺す「鉤」や「網の錘」など漁労具と考えられるものが自立します。また、貝殻や魚の骨も見つかっており、当時の人は漁業によって生活をしていたと考えられます。また、見つかった土器には南九州や瀬戸内地方のものもあり、遠い地域の人々と交流していたこともわかります。

奈良時代・平安時代になると、多くの土器が見つかっていますが、漁業を行っていたと考えられる道具はほとんど発見されません。時代とともに生活の様が変わっていましたことがわかります。当時の日本は、中国大陆や朝鮮半島の国々と交流したり、時には戦うこともあります。当時の長崎には何処かに外国から来る船を見張る「警固所」と呼ばれるところがあったとされており、国崎半島もその可能性があります。当時の国崎半島は日本の国を守る最前線基地だったのかもしれません。

矢じり



縄文時代の石器



南九州の土器

瀬戸内海の土器



奈良時代・平安時代の土器

奈良・平安時代の土器は朝鮮半島から伝わった技術を用い、縄文土器よりも高温で焼き固めるため、硬く丈夫な土器になり、色や手触りも大きく違います。須恵器と呼んで土器と区別されます。

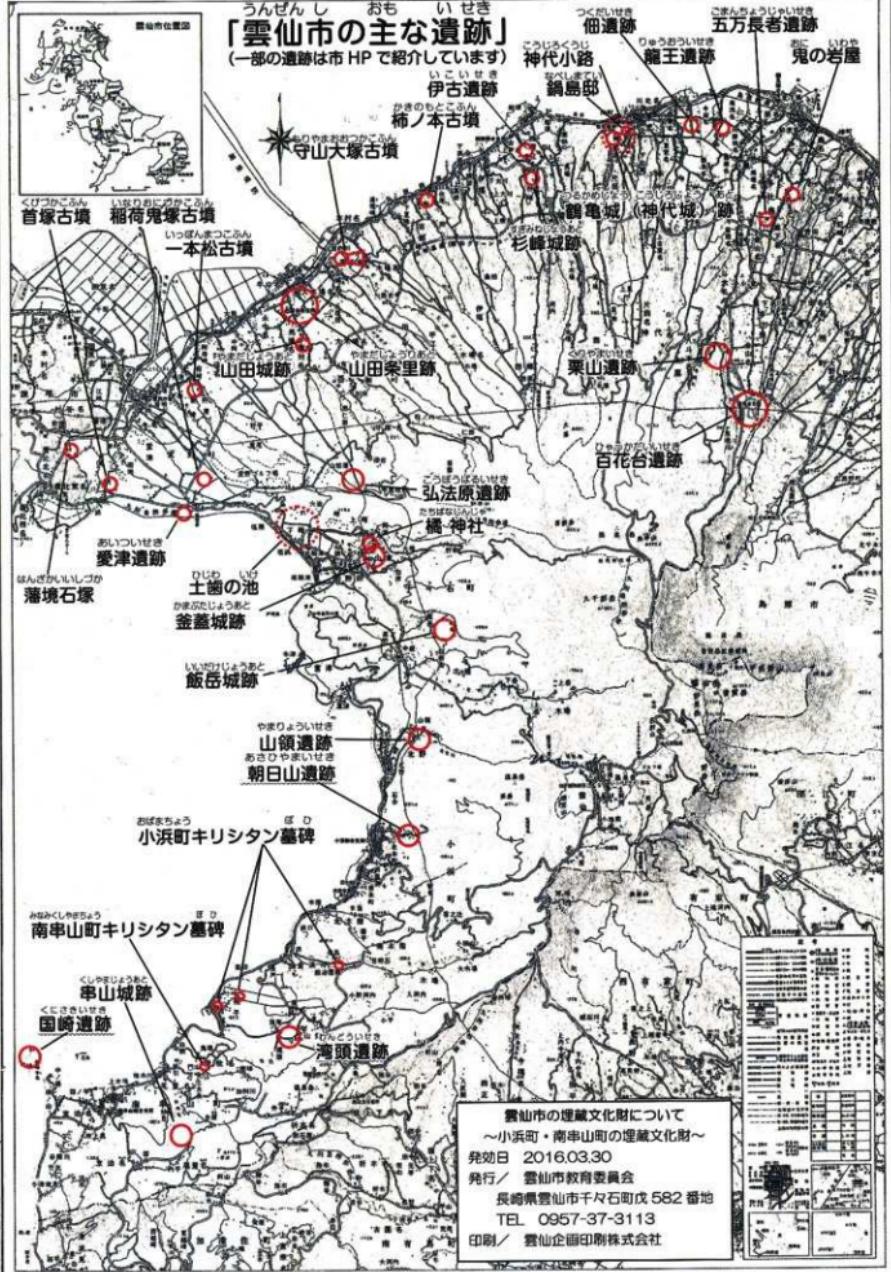
市内にはあちこちに大昔の人々が暮らした痕跡が残っています。

見つかった土器や石器はみなさんのご先祖様が実際に使っていたものかも知れませんよ。

埋蔵文化財は貴重な歴史遺産です。皆で保護し未来へ残しましょう

雲仙市管内図

平成十七年十月



1 : 75,000

雲仙市役所